

8-4-1 技術委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

技術委員会を偶数月に6回(6、8、10、12、2、4月)開催した。

技術委員会を開催しない奇数月もメール等を活用し、協議と情報交換を実施した(委員会・専門委・WG・SWGの月次報告、技術部会・常任理事会の審議・指示事項の周知・対応等)。

(2) 品質セミナーの開催

平成12年度から継続開催している「品質セミナー(エラー防止のために)」を、10月に技術委員会/照査特別WGにより全国9支部で開催し、参加者1,498名(協会員等1,383名、発注者団体115名)であった。

(3) 未来塾検討テーマへの対応

① 計画系業務のスケジュール管理表の運用
計画系業務の生産性向上を目的に、計画系業務のスケジュール管理表の内容、書式、運用方法等について本省と協議を行い、平成31年度からの運用となった。

② 2ヵ年国債の活用方法の検討

2ヵ年国債の適用が、業務の平準化の観点で望ましいと考えられる業務種類を整理した。また、適用に際しての運用上の課題(中間検査の実施手間、完成処理等経営上の課題等)を整理・提言した。

③ 施工条件明示チェックシートの運用

設計者の責任範囲の明確化と、設計条件・設計思想の施工時への確実な伝達方式の制度化に向けた対応として、「施工条件明示チェックシート」を作成し、運用に向けた関係者間での協議を進めた。

(4) 国総研・土研との意見交換会の開催

12月に国総研・土研との意見交換会を開催し、技術委員会(専門委員会を含む)の活動実績、今後の活動方針を提示の上、要望と提案事項を協議した。

(5) 共通仕様書、標準歩掛の改訂要望の提出

現行の共通仕様書及び標準歩掛について国交省技術調査課に対して改訂要望を提出した。改訂要望は項目が多岐に渡るため、共通仕様書、標準歩掛のそれぞれについて改訂の優先順位を設定した。

(6) 技術委員会の横断的活動(主要事項のみ)

① 国総研研究評価委員会委員として、国総研研究に対する意見具申を行った。(年2回開催)

② 技術課題対応WGの下部組織として5つのSWG(CIM対応SWG、改訂道路橋示方書対応SWG、公益活動SWG、業務体系SWG、自動運転SWG)の活動及び社会資本維持管理対策検討推進本部の下部組織として維持管理対策特別WGの活動を継続した。

③ 「業務研究発表会」の企画・運営に参画し、平成30年9月13日に開催した。(論文応募数80編、参加者数264名)

④ 雑誌「土木施工」の編集委員として参加した。

2. 次年度の活動について

令和元年度より、統括技術委員会として、本年度事業を引き続き実施する。

- ① 事業計画に基づく技術委員会の定例的活動
- ② 技術委員会が対応すべき分野横断的な諸テーマの検討、特に統括技術委員会の各WGで検討する課題については、早期かつ確実に対応を実施
- ③ 技術部会からの指示事項の検討
- ④ 3技術委員会から要望の検討、上位機関への上程
- ⑤ 業務研究発表会開催と他行事の対応・支援
- ⑥ NETIS
- ⑦ RCCM 自主学習・教材の作成・更新
- ⑧ 国交省等調査への対応
- ⑨ 土研、国総研との技術交流
- ⑩ 白書・対外活動への支援、他

(技術委員会委員長 菅原 正道)